

平成 17 年 7 月 29 日

業績予想の修正に関するお知らせ

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
 (コード番号 7707)
 本社所在地 千葉県松戸市上本郷 88 番地
 問い合わせ先 取締役業務本部長 秋本 淳
 TEL 047-303-4800 URL <http://www.pss.co.jp>

最近の業績動向等を踏まえ、平成 17 年 2 月 4 日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,900	100	115
今回修正予想 (B)	3,215	111	64
増減額 (B - A)	315	211	179
増減率	10.9	-	-
(ご参考) 前期実績 平成 16 年 6 月期	2,506	174	181

2. 通期単体業績予想の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,570	95	110
今回修正予想 (B)	2,861	118	102
増減額 (B - A)	291	213	212
増減率	11.3	-	-
(ご参考) 前期実績 平成 16 年 6 月期	2,281	117	410

3. 通期業績予想の修正理由

主力 OEM 先であるロシュグループ、キアゲングループ、(株)三菱化学ヤトロンのいずれも予想を上回る順調な売上計上となったことが大きく影響し、増収増益の上方修正となりました。各取引先別の売上見通しは下表のとおりであります。

(単位：百万円、%)

	平成 17 年 6 月期 前回予想(A)	平成 17 年 6 月期 今回予想(B)	増減額 (B) - (A)	平成 16 年 6 月期 前期実績	対前期比 増減率
ロシュグループ	1,200	1,456	256	1,513	3.7
キアゲングループ	1,000	1,069	69	505	111.7
三菱化学ヤترون	200	218	18	55	295.8
その他	500	471	29	432	9.0
合計	2,900	3,215	315	2,506	28.3

前回発表予想に比較し、売上予想額が大きく増加しているロシュグループに関しましては、Roche Diagnostics GmbH (RDG 社) との間で平成 17 年 6 月 30 日付にて締結した独占販売権の付与契約が大きく影響しております。これは、RDG 社に対して OEM 供給している DNA 自動抽出装置の次世代機種の商品化に合意したもので、同機種の 5 年間にわたる独占販売権を 1,500 千ユーロの対価をもって付与したものであります。

本件に関しては、既に 1 年以上にわたり RDG 社と協議を重ねてきているものであり、その中で得た情報に基づき独自のシステム概要をまとめ、事実上の開発活動を開始しており、26 百万円程度を開発費計上しております。したがって、本件が業績に与える影響額としては、売上高 204 百万円、経常利益 178 百万円の予定であります。

なお、次世代製品の販売開始時期は RDG 社のスケジュールでは 2 年後を目途としており、今後、詳細仕様が固まった段階で、装置自体の開発契約を別途締結する予定であります。その際に、PSS が自社開発 (既に実用化されている技術であり開発リスクは少ない。) として製品開発を担当し、RDG 社が十数台のプロトタイプ発注を行う予定となっております。

また、DNA 自動抽出装置等も前回予想を上回る順調な出荷を見せており、今回の上方修正の要因となっております。製品区分別の売上見通しは、下表のとおりであります。

(単位：百万円、%)

	平成 17 年 6 月期 前回予想(A)	平成 17 年 6 月期 今回予想(B)	増減額 (B) - (A)	平成 16 年 6 月期 前期実績	対前期比 増減率
DNA 自動抽出装置等	1,800	1,928	128	1,723	11.9
プラスチック消耗品その他	1,000	982	18	782	25.6
その他営業収入	100	304	204	-	-
合計	2,900	3,215	315	2,506	28.3

(注) その他営業収入は、韓国ファイナンス・テクノロジー・インターナショナル社、および上記 RDG 社への独占販売権付与契約による対価の収入であります。

4. 来期の見通しについて

来期（平成 18 年 6 月期）の見通しに関しましては、正式には決算発表時に公表する予定ですが、その概要は以下のとおりであります。

売上高に関しては、今期は、その他営業収入による 304 百万円の特殊要因がありますが、来期は、その落ち込み分をカバーし更なる売上拡大を予想しております。その中心は、本年 4 月より正式に販売開始された三菱化学ヤトロン向けの OEM 製品である小型免疫化学発光測定装置「PATHFAST」が順調な出荷を開始していることによります。

売上総利益に関しては、今期は、その他営業収入による増益の特殊要因がありますが、来期は、売上拡大に伴う収益増で、何とかその落ち込み分をカバーできますので、ほぼ今期並みとなる見通しであります。

一方で、販売費および一般管理費に関しては、欧米の海外子会社において、人員強化および展示室や実験ラボの設置を目的とした施設拡充を図る計画など、数千万円程度の費用増加を見込んでおります。したがって、経常利益ベースでは、何とか黒字を確保する程度に留まるものと考えております。

ただし、この見通しは、現時点での製品ラインアップを引続き販売していた場合の見通しであり、現在交渉中の新製品や新たな OEM 先などの案件は見込んでおりません。来期は、そういった新規契約の獲得に努め、見通しを上回ることができるよう、努力していく所存であります。

また、来期からの減損会計適用により、特別損失 237 百万円が予定されておりますので、当期純利益は赤字となる見通しであります。減損処理の対象は、平成 2 年 8 月に取得した松戸市に所在する旧研究所であります。平成 13 年 3 月までは研究所として使用していましたが、本社移転に伴い閉鎖しております。現在は、使用していない装置・器具を収納する倉庫代わりに使用しておりますが、遊休資産であるため、土地・建物の時価評価との差額および使用していない装置・器具類を減損処理の対象とする予定であります。

以 上